

KAWAI

演奏の準備

様々な設定を操作する

付録

ANYTIME X3

ATX3L

取扱説明書

JA

このたびは、KAWAI消音ピアノATX3Lをご購入
くださいます、誠にありがとうございます。
本楽器を存分にお楽しみいただき、末永くご愛用いた
くためにも、この取扱説明書をよくお読みになり、
大切に保管してくださいようお願い申し上げます。

はじめに

■取扱説明書について

取扱説明書では、ATX3L をすぐお使いできるよう基本的な演奏ガイドから、様々な機能を使いこなすための操作まで説明しています。

■本製品の特長

カワイが誇るフルコンサートグランドピアノ SK-EX、EX のピアノ音を搭載

ATX3L の電子音にはカワイが誇る最高のグランドピアノシリーズである Shigeru Kawai から、コンサートグランドピアノ SK-EX を新たに搭載しました。

また、世界最高峰のピアノコンクールであるショパン国際ピアノコンクールで実際に使用したカワイコンサートグランドピアノ EX も搭載、合計 2 モデルのグランドピアノ音を内蔵しています。

これらのピアノレコーディングにおいては、ピアノ作りに精通したカワイだからできる最良のピアノ選定、最高レベルの調律師による秀逸のピアノ調整を行っています。それらのピアノを 88 個の鍵盤一つ一つ丁寧に、究極のこだわりを持って録音することで、妥協のないピアノサウンドに仕上がりました。

アップライトピアノ音を含め 8 つのピアノ音色を搭載

弾きたい曲や気分に応じてピアノ音を選んで使用することができます。

さらに、ピアノの音をまるで調律師のように調整できる「おまかせ設定」を搭載。簡単にお好みのピアノの状態を作り出すことができます。

目次

はじめに	3
目次	3
安全上のご注意	4

演奏の準備

演奏の準備	6
1 各部の機能と名称	6
2 演奏の準備	8

様々な設定を操作する

ペダルと鍵盤を使って様々な設定をおこなう	10
1 音色の選択	11
2 メトロノームの設定	12
3 おまかせ設定	13
4 リバース（残響）の選択	14

5 チューニング（調律）	15
6 トランスポーズ（移調）の設定	16
7 MIDI 送信・受信チャンネルの設定	17
8 ローカルコントロールの設定	20
9 オートパワーオフの設定	21

付録

困ったときは？	22
他の機器との接続	23
ATX3L 仕様	25
KAWAI [Model ATX3L] MIDI インプリメンテーションチャート	26

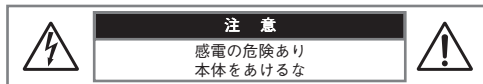
安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。表示と意味は下記のようになっています。

■本体に表示されているマークについて

製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないでください。

 このマークは、感電の危険があることを警告しています。

 このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

 △記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

 ○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

 ●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止



- 電圧の異なる電源を使用しないでください。
- 発火の恐れがあります。
- 付属のACアダプタを使用してください。

◆付属のACアダプタは本機でのみ使用する



本機専用

- 付属のACアダプタ以外を本機で使用しないでください。
- 付属のACアダプタおよびその電源コード部を他の機器で使用しないでください。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



- 感電の原因になります。

◆電源コードは無理に曲げたり、重いものを乗せたり、熱いものを近づけたり、傷つけたりしない

コードを傷つけない



- コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける、かける、こぼす）などしない



- 漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機を落とさない

落とさない



- 運搬の際は、必ず2人以上で運んでください。

◆イスは次のように使用しない

- イスで遊んだり、踏み台にしない
- イスには2人以上で座らない
- イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
- イス組立時、ネジをしっかりと締める

使用しない



- イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。
- 不安定な場所に置かないでください。
- 長時間使用してイスのボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止



- 聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

分解禁止



- 故障、感電、ショートの原因になります。

◆異常が起こった場合、故障した場合は即座に電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜く



◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

⚠ 注意

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く



●落雷時に火災の原因になります。

◆本機を次のような所では使用しない

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- 戸外など極端に温度の低い場所
- 極端に湿度の高い場所
- 砂やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

使用禁止



●故障の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる



●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切て行う

電源を切る



●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない



●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない



●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す



●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用ください。

◆電源コード、接続コード類は本体で踏んだりからまないように接続する

からまないようにする



●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン/シンナー禁止



●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いてください。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時は、構造上打鍵音が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

■保証書について

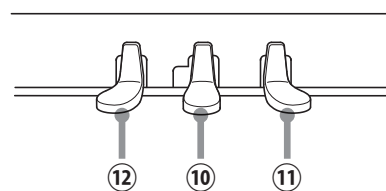
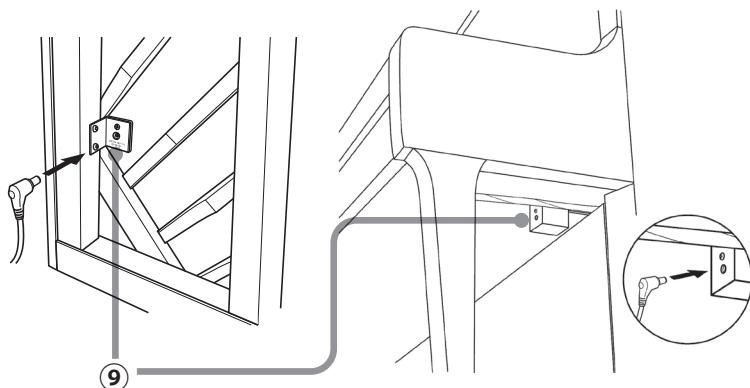
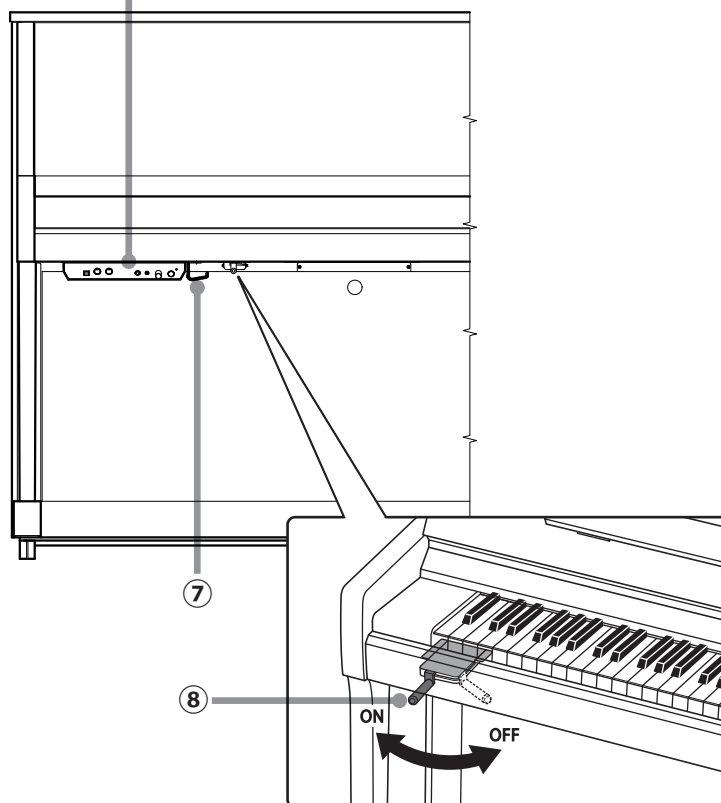
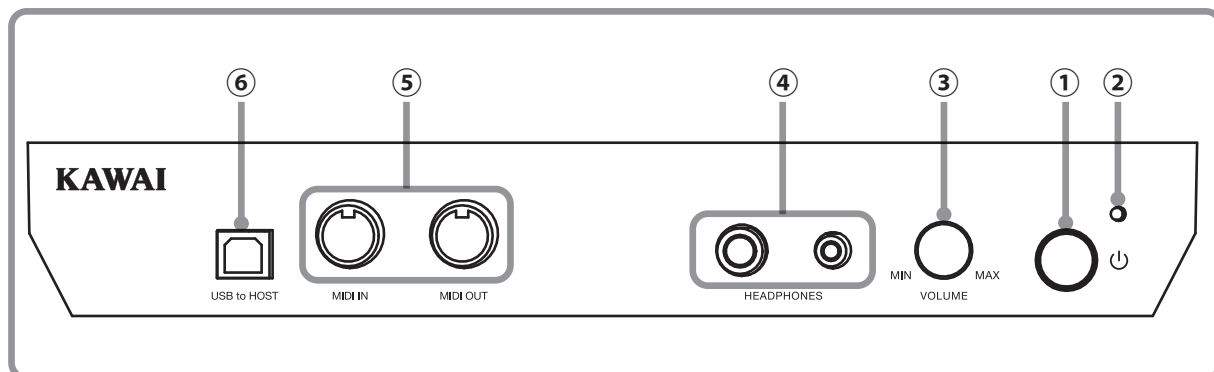
- 本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。
- 保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管ください。

■修理について

- 万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。

演奏の準備

1 各部の機能と名称



① ^{パワ}**[POWER]** スイッチ

電源のオン／オフを行います。
ご使用後は、必ず電源をオフにしてください。

② **電源表示ランプ**

電源がオンのとき点灯します。

③ ^{ボリューム}**[VOLUME]** つまみ

ヘッドホンや、アンプを通してスピーカーから出力される
ATX3L の電子音の音量を調整します。

④ ^{ヘッドホンズ}**[HEADPHONES]** 端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンは2つまで接続できます。

⑤ ^{ミディ イン アウト}**[MIDI IN/OUT]** 端子

MIDI 規格に対応している楽器と接続するための端子です。(P. 17 参照)

⑥ ^{ユーエスビー トゥー ホスト}**[USB TO HOST]** 端子

市販の USB ケーブルでコンピュータと接続すると、MIDI デバイスとして認識され通常の MIDI インターフェイスと同様に MIDI メッセージを送受信することができます。

⑦ **ヘッドホンフック**

ヘッドホンを使用しない時、ここへ掛けてください。

⑧ **マフラーレバー**

このレバーを手前に引くと、弦とハンマーの間に薄いフェルトまたはクロスが下がり、この上からハンマーが打弦することになるため、音量が弱まります。

⑨ **DC IN**

AC アダプタを接続します。
ピアノによって、本体裏下部にある場合と、高音側の鍵盤下部にある場合があります。

⑩ **消音切替ペダル**

アコースティックピアノの音を消すペダルです。消音演奏のときには、このペダルを踏んで左にスライドし、固定してください。なお、演奏途中に、このペダルを操作しないでください。

⑪ **ダンパーペダル**

このペダルを踏んで演奏すると、鍵盤から手を離した後の音の減衰の仕方が変わります。最も深く踏んだときに、最も音が伸びます。

⑫ **ソフトペダル（ソステヌートペダル）**

音量がわずかに下がると同時に、音の響きがやわらかくなります。

また、このペダルを踏みながら電源を ON するとソステヌートペダルに切り替わります。鍵盤を押した後、指を離す前にソステヌートペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤のみに余韻を与えます。

さらに、このペダルと鍵盤を使い、ATX3L の音色やチューニング等を設定することができます。(P. 10 ～参照)

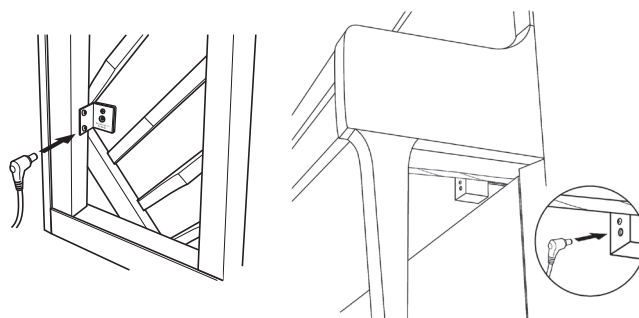
音色にジャズオルガンが選ばれているときは、このペダルを踏むたびに、ロータリー（回転）スピーカーエフェクトのスピード（Slow/Fast）が切り替わります。曲想に応じて切り替えてご使用ください。

2 演奏の準備

■電源を入れる

1. AC アダプタを本体に接続する

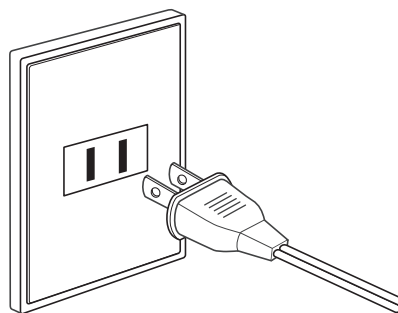
付属の AC アダプタの本体接続側のプラグを、本体背面の DC IN に差し込みます。



2. 電源コードをコンセントに接続する

AC アダプタの電源プラグを AC100V のコンセントに差し込みます。

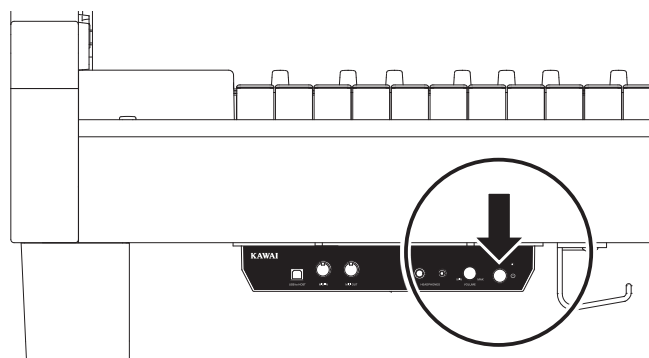
*電源プラグとコンセントの間にほこりがたまらないように、定期的に掃除をしてください。



3. 電源を入れる

[POWER] スイッチを押して、電源をオンにします。[POWER] スイッチを押すと、電源表示ランプが点灯します。

電源を切るときは、もう一度 [POWER] スイッチを少し長押しします。電源表示ランプが消灯します。

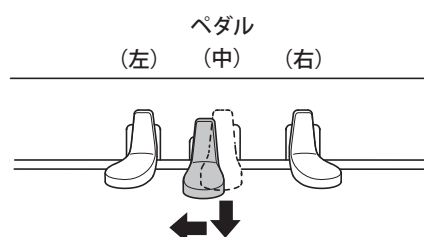


4. 消音へ切り替える

中央の消音切替ペダルを踏んで左にスライドして固定し、アコースティックピアノの音を消します。

*演奏途中では、このペダルの操作はおこなわないでください。

*ペダルは左で止まるまでしっかりスライドしてください。スライドが不十分だと、ソフトペダル（左ペダル）を踏んだとき電子音が出なくなる場合があります。

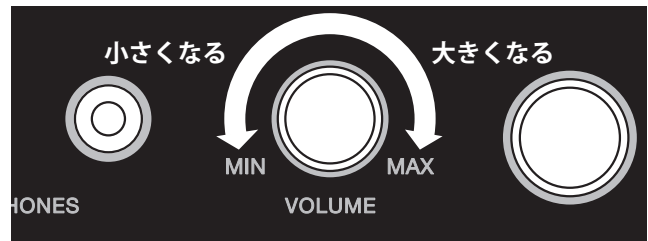


中ペダルを踏み込み、左へスライドさせます。

5. 音量を調節する

[VOLUME] つまみで音量を調整します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと小さくなります。

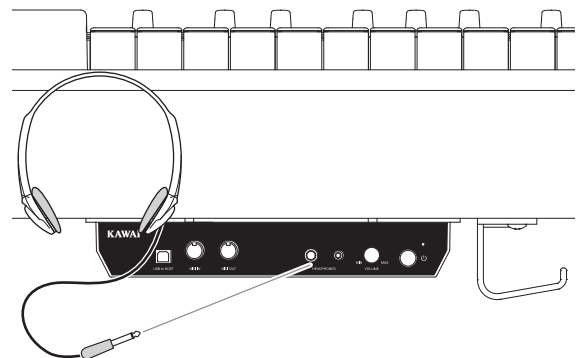
* 音量を大きくすると、演奏によっては音が歪む場合があります。その場合、音量を小さくして使用してください。



6. ヘッドホンを接続する

付属のヘッドホンに [HEADPHONES] 端子に差し込みます。

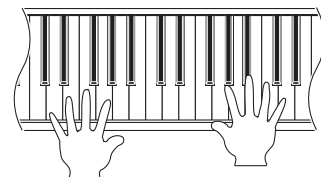
ヘッドホンを使わないときは、ヘッドホンフックにヘッドホンをかけておくことができます。



7. 演奏する

鍵盤を弾くとヘッドホンから電子音のグランドピアノの音が出ます。

空いているもう一つの端子に、お手持ちの別のヘッドホンを接続すると、2人でエニィタイムの音を聴くことができます。



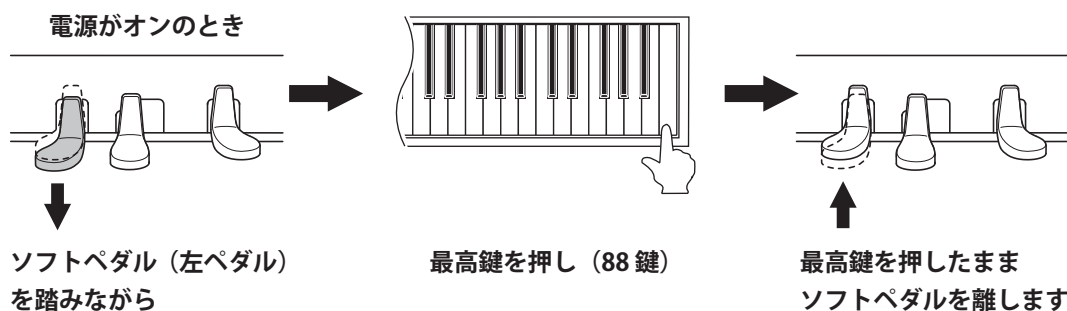
ペダルと鍵盤を使って様々な設定をおこなう

ATX3L では、ペダルと鍵盤を使って次のような設定ができます。

- | | | |
|--------------|------------------|-----------------------|
| 1) 音色の選択 | 4) リバーブの選択 | 7) MIDI 送信・受信チャンネルの設定 |
| 2) メトロノームの設定 | 5) チューニング（調律）の設定 | 8) ローカルコントロールの設定 |
| 3) おまかせ設定 | 6) トランスポーズの設定 | 9) オートパワーオフの設定 |

■ 設定モードに入る

電源がオンのとき



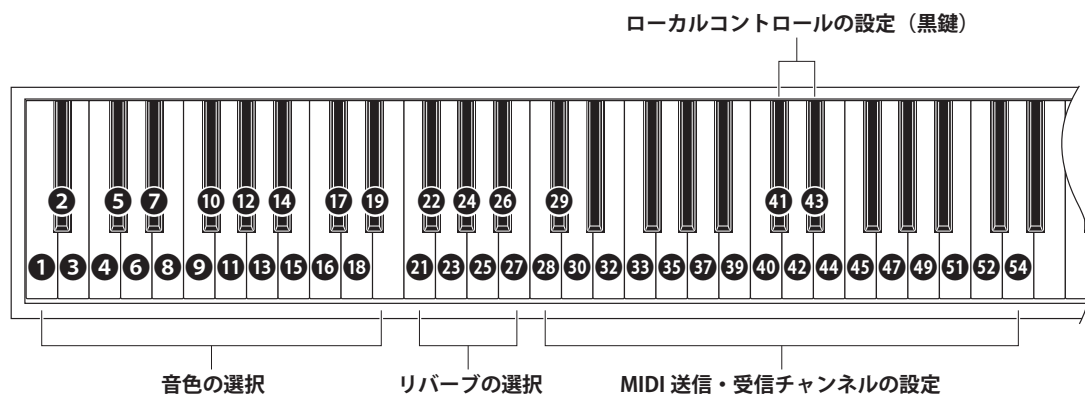
指を最高鍵から離してください。これで設定モードに入りました。

ダンパーペダル（右ペダル）を踏むと、設定モードが解除されます。

* ダンパーペダルが踏まれている状態では、選択モードには入れません。

* ソフトペダルを踏むときに、鍵盤が押されていると選択モードには入れません。

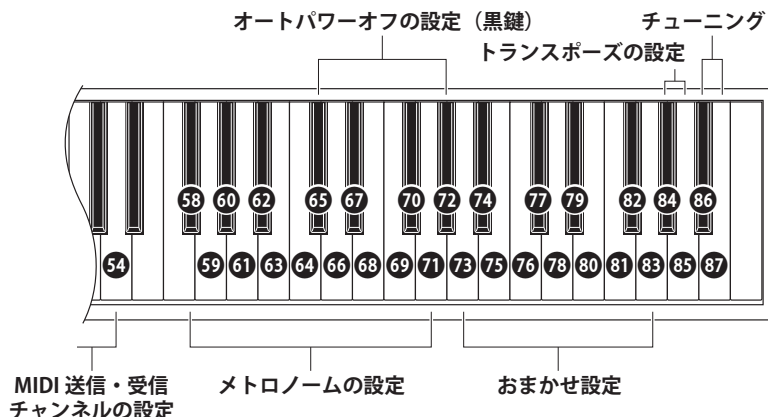
■ 設定で使う鍵盤



ダンパーペダル（右ペダル）を踏むと、設定モードが解除されます。

設定には、数字の入っている鍵を使います。設定モードのとき、これらの鍵を押しても音は出ません。（ただし、メトロノームの設定をする鍵を押すと、64 鍵以外はメトロノームの音が出ます。）

それ以外の数字の入っていない鍵は、そのとき選ばれている音色が発音されますので、設定モードを解除しなくても、これらの鍵を押せば、設定によってどのように音が変わったかを確認することができます。



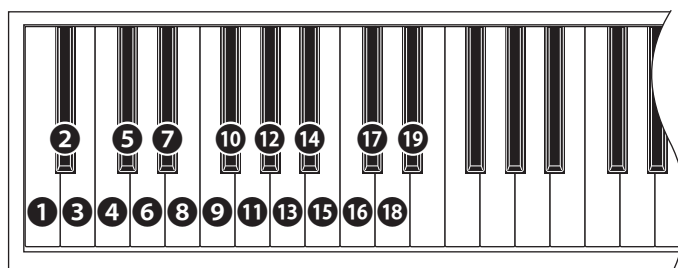
1 音色の選択

ATX3L には 19 の音が内蔵されていますので、さまざまな音楽に合わせた音で演奏を楽しむことができます。この内蔵されている音を「音色」といいます。

電源 ON 時は、「SK コンサートグランド」に設定されています。

■ 音色の選択

設定モードに入り (P. 10)、選択したい音色が割り当てられた鍵を押します。



鍵 NO.	音 色 名	鍵 NO.	音 色 名
①	SK コンサートグランド	⑪	ジャズオルガン*
②	EX コンサートグランド	⑫	チャーチオルガン
③	アップライトピアノ	⑬	ハーブシコード
④	スタジオグランド 1	⑭	ビブラフォン
⑤	スタジオグランド 2	⑮	ストリングス 1
⑥	メロウグランド 1	⑯	ストリングス 2
⑦	メロウグランド 2	⑰	クワイア
⑧	モダンピアノ	⑱	ファンタジー 1
⑨	エレクトリックピアノ 1		ファンタジー 2
⑩	エレクトリックピアノ 2		

※ジャズオルガンが選ばれているときは、ソフトペダル (P. 7) を踏むたびにロータリー (回転) スピーカーエフェクトのスピード (Slow/Fast) が切り替ります。曲想に応じて切り替えてご使用ください。

選択が終了したら、ダンパーペダル (右ペダル) を踏んでください。

設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

*音色によっては楽器が本来持っている音域より広い音域になっているものがあります。

*アコースティックのピアノの音は、様々な響きが複雑に混ざり合うことで豊かな音色を実現しています。それらの響きの中には、金属的な音やノイズ系の音も含まれています。また 1 鍵 1 鍵の響きも異なります。ATX3L の電子音はアコースティックピアノに限りなく近い音を実現させているため、このような音も再生されます。これは異常ではありません。

2 メトロノームの設定

メトロノームを鳴らしながら、テンポを保って練習することができます。

■テンポ・拍子・音量の設定

設定モードに入り (P. 10)、対応する鍵を押すと、テンポ・拍子・音量を設定できます。

テンポは、白鍵の 61 鍵、63 鍵、黒鍵の 60 鍵、62 鍵を押して設定します。

白鍵の 61 鍵を押すと、鍵盤を押す度にテンポが 10 上がります。

黒鍵の 60 鍵を押すと、鍵盤を押す度にテンポが 10 下がります。

※ 微調整は白鍵の 63 鍵と黒鍵の 62 鍵で行ってください。

白鍵の 63 鍵を押すと、鍵盤を押す度にテンポが 1 上がります。

黒鍵の 62 鍵を押すと、鍵盤を押す度にテンポが 1 下がります。

テンポの値は「10 ～ 300」の範囲で設定できます。60 鍵と 61 鍵、もしくは 62 鍵と 63 鍵を同時に押すと、初期値「120」に戻ります。

拍子は白鍵の 66 鍵、68 鍵、69 鍵、71 鍵を押して設定します。

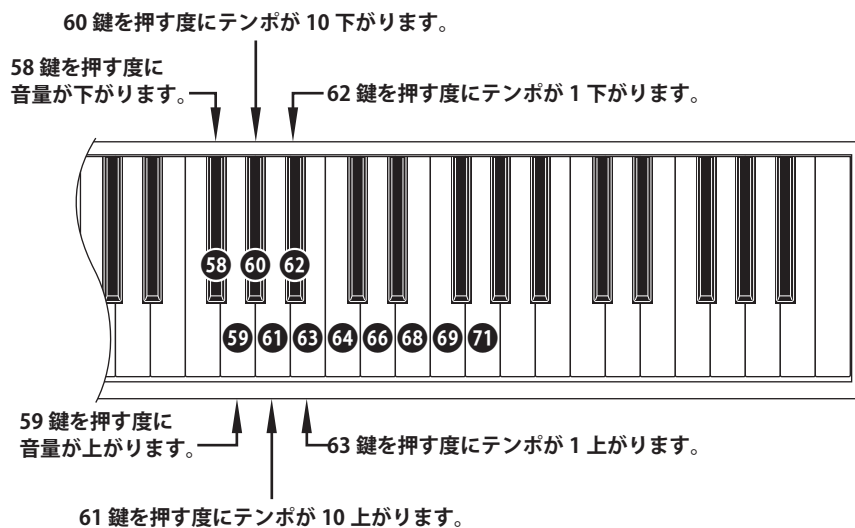
白鍵の 64 鍵を押すと、メトロノームが止まります。

音量は白鍵の 59 鍵、黒鍵の 58 鍵を押して設定します。

白鍵の 59 鍵を押すと、鍵盤を押す度に音量が上がります。

黒鍵の 58 鍵を押すと、鍵盤を押す度に音量が下がります。

音量は「1 ～ 10」の範囲で設定できます。58 鍵と 59 鍵を同時に押すと、初期値「5」に戻ります。



鍵 NO.	拍子
64	Off
66	1/4
68	2/4
69	3/4
71	4/4

設定が終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。

設定モードが解除され、メトロノームを鳴らしながら通常の演奏ができます。

メトロノームを止めるときは、再度設定モードに入り、64 鍵を押してください。

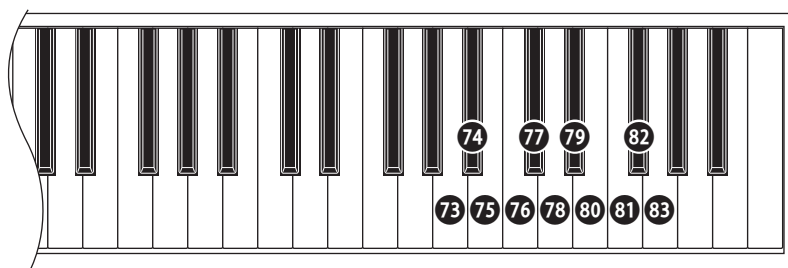
3 おまかせ設定

おまかせ設定を選ぶことで、細かい調整内容を知らなくても、簡単に様々なピアノ調整を楽しむことができます。

■ おまかせ設定の選択

設定モードに入り（P. 10）、対応する鍵を押すと、おまかせ設定を選択できます。

おまかせ設定は、73 鍵から 83 鍵の白鍵と黒鍵を使って選択します。



鍵 NO.	名称	説明
73	オフ	詳細設定が全て初期値の設定です。
74	ノーノイズ	ダンパーを踏んだときの「シャーン」という音や、鍵盤を離したときの「ゴト」という音を消したチューニングです。
75	ディープレゾナンス	ダンパーペダルを踏みながら音を出したときの響きや、弦の共鳴等をより深くしたチューニングです。
76	レスレゾナンス	ダンパーペダルを踏みながら音を出したときの響きや、弦の共鳴等を抑えたチューニングです。
77	ソフト	ハンマーを柔らかく調整し、鍵盤のタッチを重めにする事で響きをソフトにしたチューニングです。落ち着いた曲や静かな曲に適しています。
78	ブリリアント	ハンマーを固めに調整し、ダンパーやピアノ本体等の響きを明るくしたチューニングです。明るく華やかな曲、よく響かせたい曲に適しています。
79	クリーン	ハンマーを固めに調整し、鍵盤のタッチを軽くすることで響きをすっきりとさせたチューニングです。
80	ストロング	ハンマーの反応を強めて、各種ノイズや響きを強めにしたチューニングです。抑揚のあるダイナミックな曲に適しています。
81	グルーミー	ハンマーを固めに調整し、鍵盤のタッチを重くすることで独特な薄暗い響きを持たせたチューニングです。
82	リッチ	ハンマーの反応を強めて鍵盤を軽めにし、響きを豊かにしたチューニングです。
83	クラシカル	「古典派」から「ロマン派」にかけての時代に使われたピアノを再現したチューニングです。

設定が終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。

設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

4 リバーブ（残響）の選択

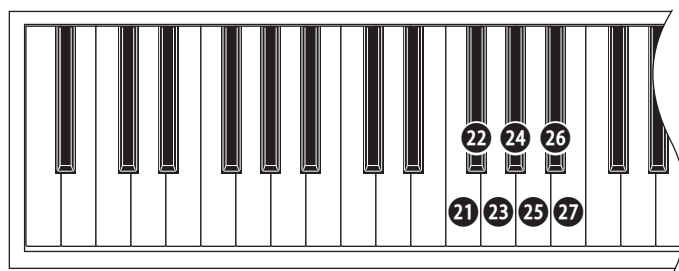
リバーブを加えると、音に残響効果が加わりコンサートホールで演奏しているような深みのある美しい響きが得られます。

電源 ON 時は、各音色に最適なリバーブが設定されます。

■ リバーブの選択

設定モードに入り（P. 10）、対応する鍵を押すと、リバーブの種類を各音色ごとに選択できます。

リバーブは、21 鍵から 27 鍵の白鍵と黒鍵を使って設定します。



鍵 NO.	種類	効果
21	Off	リバーブ効果なし
22	ルーム	室内での演奏時の残響を再現した効果です。
23	ラウンジ	ラウンジでの演奏時の残響を再現した効果です。
24	スモールホール	小ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。
25	コンサートホール	クラシック向け大ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。
26	ライブホール	ライブ向け大ホールでの演奏時の残響を再現した効果です。
27	カテドラル	大聖堂での演奏時の残響を再現した効果です。

選択が終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。

設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

5 チューニング（調律）

電子音のピッチ（音程）を調整することができます。スピーカーから電子音を出して他の楽器と合奏するときなど、ピッチ（音程）を合わせたいときに使用します。

電源 ON 時は、「440Hz（ヘルツ）」に設定されています。

■ ピッチの設定

設定モードに入り（P. 10）、対応する鍵を押すと、ピッチを設定できます。

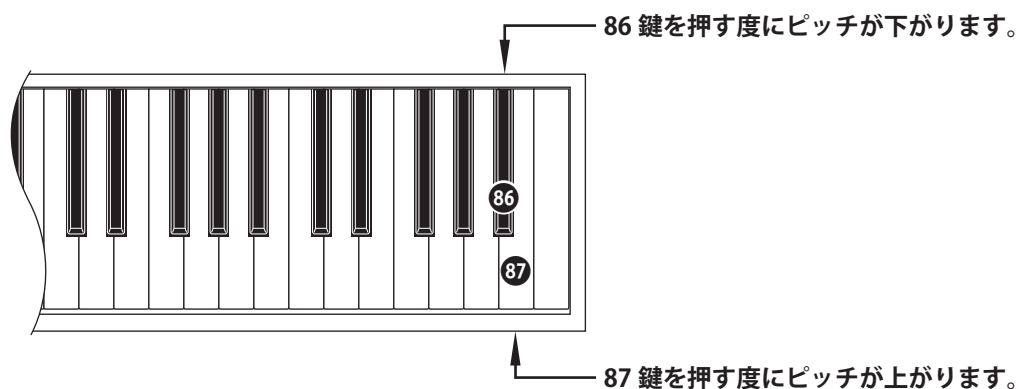
チューニングは、黒鍵の 86 鍵と白鍵の 87 鍵を使って設定します。

白鍵の 87 鍵を押すと、鍵を押す度に電子音のピッチが上がっていきます。

黒鍵の 86 鍵を押すと、鍵を押す度に電子音のピッチ下がっていきます。

チューニングできる範囲は「427.0 ～ 453.0Hz（ヘルツ）」です。1 回鍵を押す度に「0.5Hz」単位で変化します。

86 鍵と 87 鍵を同時に押すと、初期値「440Hz（ヘルツ）」に戻ります。



チューニングが終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。

値を記憶した後、設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

* チューニングは電源を切っても、設定内容が保存されます。

6 トランスポーズ（移調）の設定

スピーカーから電子音を出してキー（調）の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾く鍵盤を変えずに簡単に移調できます。

電源 ON 時は、「ハ長調／C」に設定されています。

■ トランスポーズの設定

設定モードに入り（P. 10）、対応する鍵を押すと、移調できます。

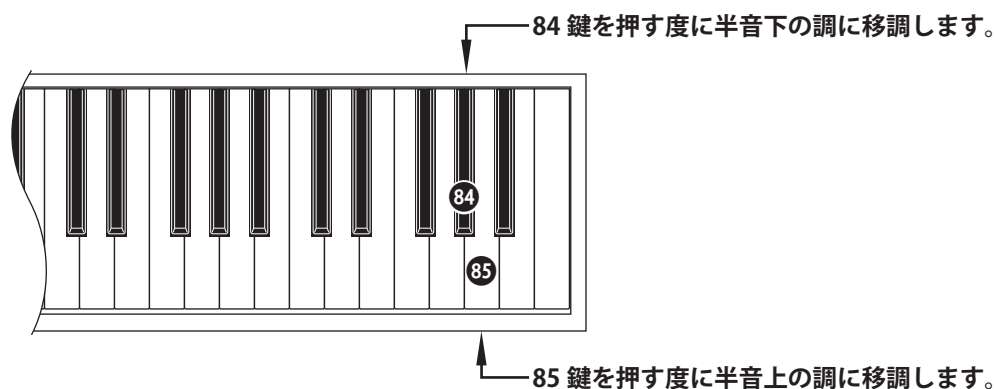
トランスポーズは、黒鍵の 84 鍵と白鍵の 85 鍵を使って設定します。

白鍵の 85 鍵を押すと、鍵を押す度に半音上の調に移調します。

黒鍵の 84 鍵を押すと、鍵を押す度に半音下の調に移調します。

トランスポーズは移調値を「- 12 ～ + 12（全オクターブ）」の間で設定します。

84 鍵と 85 鍵を同時に押すと、初期値「0 = ハ長調／C」に戻ります。



設定が終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。

設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

7 MIDI 送信・受信チャンネルの設定

送信・受信チャンネルを設定することができます。

接続された MIDI 楽器とさまざまな情報をやりとりするためには、楽器同士のチャンネルをあわせておくことが必要です。

チャンネルは送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、ATX3L では送受信を別々のチャンネルに設定することはできません。1 つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

■ MIDI について

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface の略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

*“MIDI” は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

■ MIDI 端子の種類

ATX3L の MIDI 端子には、IN、OUT の 2 つの種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。

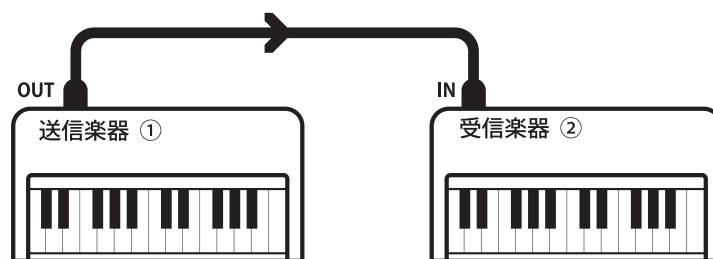
MIDI 端子名	機能
IN	鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	鍵盤情報や音色情報を送信します。

■ MIDI チャンネル

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには受信チャンネルと送信チャンネルの 2 種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。

受信チャンネルとはある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとはある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

例えば 2 台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



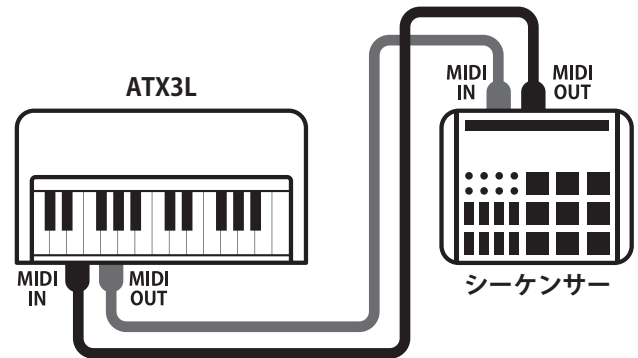
送信楽器①は、送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器②に送ります。

受信楽器②には、この情報が送られて来ます。基本的には受信楽器②の受信チャンネルと送信楽器①の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。

ペダルと鍵盤を使って様々な設定をおこなう

MIDI の使用例

図の様にシーケンサーに接続すれば、ATX3L の電子音の演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、練習に役立てることができます。



ATX3L の MIDI 機能

鍵盤情報の送信・受信

ATX3L を弾いて MIDI で接続したシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

プログラム（音色）ナンバーの送信・受信

ATX3L を弾いて MIDI で接続したシンセサイザーの音色を変えたり、その逆が可能です。

音色に対応する送受信プログラムナンバー

音 色	プログラムナンバー	音 色	プログラムナンバー
SK コンサートグランド	1	ジャズオルガン	11
EX コンサートグランド	2	チャーチオルガン	12
アップライトピアノ	3	ハーブシコード	13
スタジオグランド 1	4	ビブラフォン	14
スタジオグランド 2	5	ストリングス 1	15
メロークランド 1	6	ストリングス 2	16
メロークランド 2	7	クワイア	17
モダンピアノ	8	ファンタジー 1	18
エレクトリックピアノ 1	9	ファンタジー 2	19
エレクトリックピアノ 2	10		

ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルの ON/OFF 情報の送信・受信ができます。

ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、ATX3L の電子音を出しているとき、シンセサイザーで ATX3L の電子音の音量をコントロールすることができます。

エクスクルーシブデータの送信・受信

設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信・受信ができます。

ATX3L の MIDI 機能についての詳細は、「MIDI インプリメンテーションチャート」(P.26) をご覧ください。

■ MIDI チャンネルの設定

設定モードに入り (P. 10)、対応する鍵を押すと、チャンネルの設定ができます。

MIDI チャンネルは、白鍵の 28 鍵から 54 鍵を使って設定します。

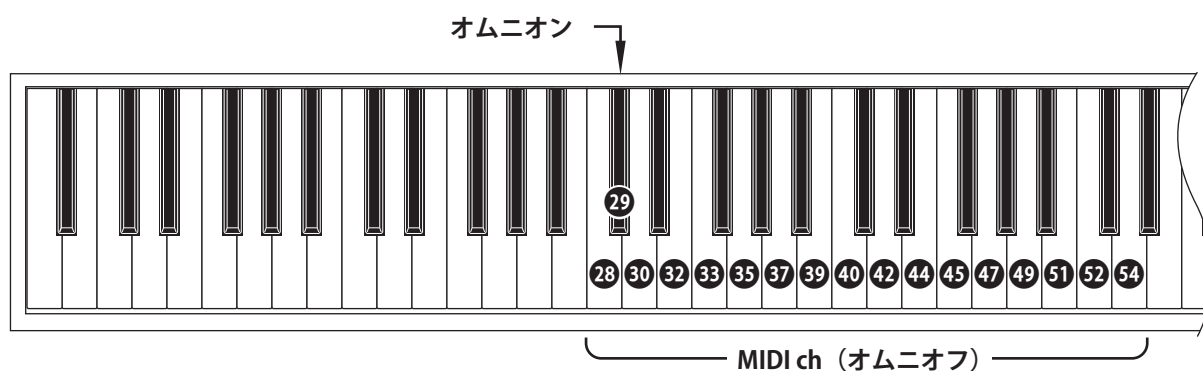
黒鍵の 29 鍵を押すと、1 ～ 16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になります。

これを「オムニオン」と呼びます。

その他の設定では、設定したチャンネルの情報のみを受信します。これを「オムニオフ」と呼びます。

チャンネルは「1 ～ 16」の間で設定できます。

電源 ON 時は、「オムニオン」に設定されています。



鍵 NO.	28	30	32	33	35	37	39	40	42	44	45	47	49	51	52	54
チャンネル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

設定が終了したら、ダンパーペダルを踏んでください。

設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

8 ローカルコントロールの設定

本体の鍵盤を弾いた時に、電子音を出すか・出さないかを設定します。

ローカルコントロールが「オン」の時は、通常通り鍵盤を弾けば電子音が鳴ります。

ローカルコントロールが「オフ」の時は、鍵盤を弾いても電子音は鳴らず MIDI 情報を送信するだけで、MIDI 情報を受信したときのみ電子音が鳴ります。

電源 ON 時は、「オン」に設定されています。

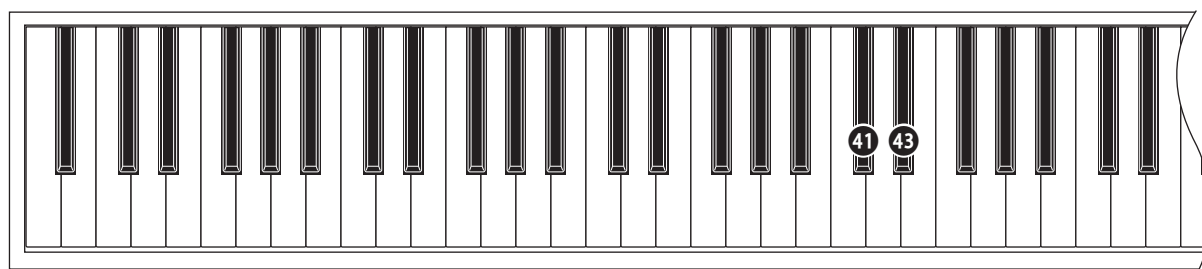
■ ローカルコントロールの設定

設定モードに入り (P. 10)、対応する鍵を押すと、ローカルコントロールの「オン」「オフ」の設定ができます。

ローカルコントロールは、黒鍵の 41 鍵、43 鍵を使って設定します。

黒鍵の 41 鍵を押すと、ローカルコントロールが「オフ」になります。

黒鍵の 43 鍵を押すと、ローカルコントロールが「オン」になります。



鍵 NO.	ローカルコントロール
-------	------------

41	オフ
----	----

43	オン
----	----

設定が終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。

設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

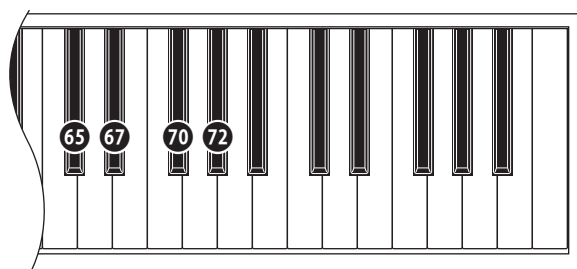
9 オートパワーオフの設定

ATX3L では、何も動作していない状態が続いた場合、電源を自動で切る設定を行うことができます。電源 ON 時は、「オフ」に設定されています。

■ オートパワーオフの設定

設定モードに入り (P. 10)、対応する鍵を押すと、オートパワーオフの種類が設定できます。

オートパワーオフは、黒鍵の 65 鍵、67 鍵、70 鍵、72 鍵を使って設定します。



鍵 NO.	種類	内容
65	オフ	電源が自動で切れない設定です。
67	15 分	15 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。
70	60 分	60 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。
72	120 分	120 分何も動作していない状態が続くと自動で電源が切れます。

設定が終了したら、ダンパーペダル（右ペダル）を踏んでください。
設定モードが解除され、通常の演奏ができます。

* オートパワーオフは電源を切っても、設定内容が保持されます。

困ったときは？

電源が入らない

コンセントと AC アダプターとピアノ本体が正しく接続されていますか？

接続されていても、抜けかかっていることがあります。一度抜いて接続しなおしてみてください。(P.8 参照)

電源が突然切れた。いつの間にか切れていた。

オートパワーが設定されていませんか？ (P.21 参照)

電子音が出ない

1. ローカルコントロールがオフになっていませんか？
2. 音量が 0 になっていませんか？ (P.9 参照)

電子音での特定の演奏、特定の音域で音が歪む

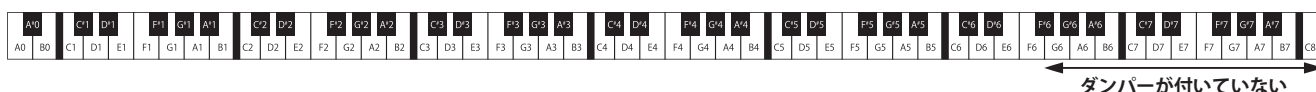
ボリュームを大きくすると、演奏によっては音が歪む場合があります。その場合、音量を小さくして使用してください。

電子音の特定のピアノ音色で音程や音質がおかしい

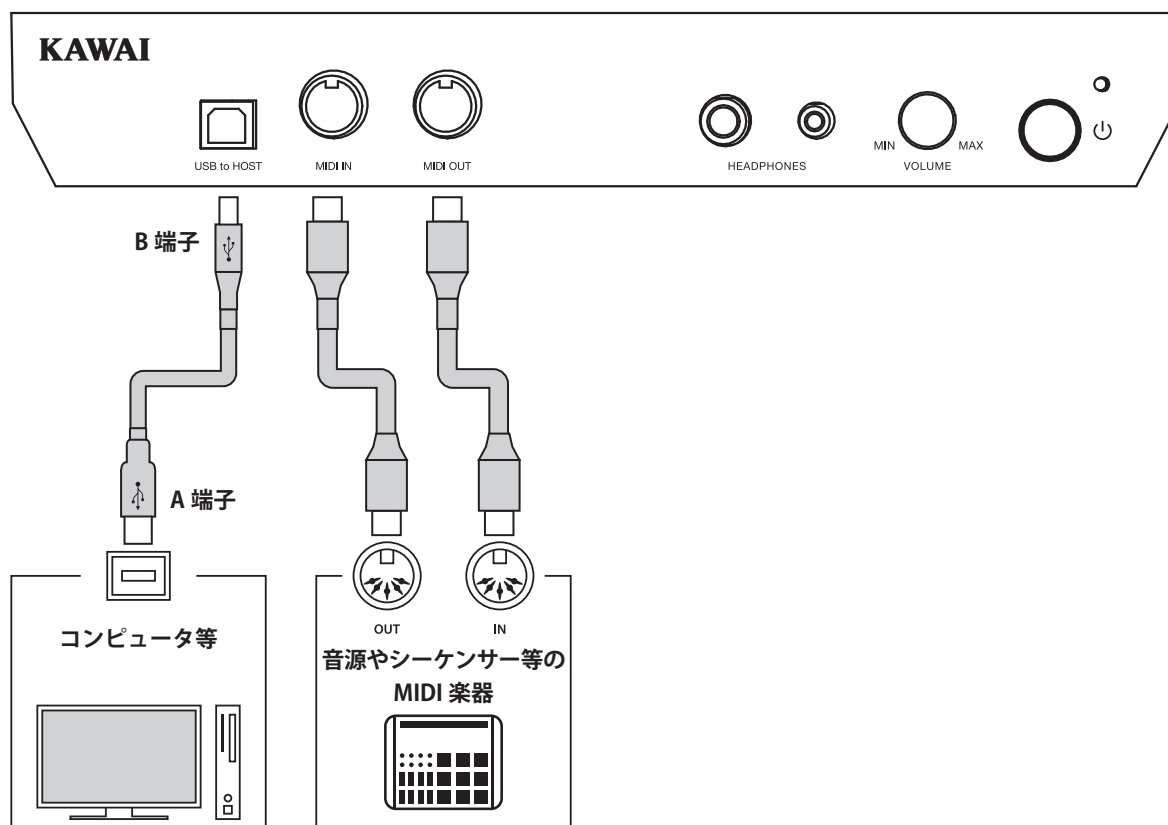
内蔵のピアノの電子音は、ピアノ本来の音を可能な限り忠実に再現しています。ピアノ音は複雑な響きを持っているため、聴く位置や環境によって音の感じ方が変わります。また単音で強打した場合と曲の流れの中で弾いた場合でも音の感じ方は変わります。そのため音域によっては倍音が強く聴こえ、音程や音質が異質に感じられる場合があります。これは異常ではありません。

電子音の高音域で、ダンパーが効かない

ピアノにおいて、一番高い領域の鍵盤（下図）にはダンパーという止音装置が付いておりません。ATX3L ではその機構を忠実に再現しているため、その鍵盤についてはダンパーペダルを踏んでも踏まなくても音が伸びます。



他の機器との接続



他の機器と接続する時は ATX3L の電源を切ってから行ってください。電源が入っている時に行うとノイズ音が発生し、アンプの保護回路が働き ATX3L の電子音が出なくなることがあります。出なくなった場合はもう一度電源を入れ直してください。

1. MIDI (ミディ)

MIDI 規格に対応している楽器と接続する端子です。

2. USB 端子

市販の USB ケーブルでコンピュータと接続すると、MIDI デバイスとして認識され通常の MIDI インターフェイスと同様に MIDI メッセージを送受信することができます。

USB 端子には A 端子と B 端子があり、コンピュータ側は A 端子、デジタルピアノ側は B 端子でそれぞれ接続します。

■ USB ドライバーについて

コンピュータと ATX3L を USB 接続してデータをやりとりするためには、ATX3L を正しく動作させるためのソフトウェア（USB-MIDI ドライバー）がコンピュータに組み込まれている必要があります。

お使いのコンピュータの OS によって使用する USB-MIDI ドライバーが異なりますので、下記の説明をよく読んでお使いください。

OS	
Windows Vista (SP1, SP2) Windows Vista 64-bit (SP1, SP2) Windows 7 Windows 7 64-bit Windows 8 Windows 8 64-bit Windows 8.1 Windows 8.1 64-bit Windows 10 Windows 10 64-bit	Windows に搭載されている標準 USB-MIDI ドライバーを使用しますので、パソコンと接続すると自動的にこの USB-MIDI ドライバーがインストールされます。アプリケーションソフトで本機と MIDI 通信する場合は MIDI デバイスとして「USB-MIDI」を指定してください。
Windows Vista (SP なし) Windows Vista 64-bit (SP なし)	USB-MIDI をサポートしておりません。SP1、または SP2 にアップグレードをしてください。
Windows 98 SE Windows 2000 Windows ME Windows XP (SP なし, SP1, SP2, SP3) Windows XP 64-bit	XP 以前の Windows にはサポートしておりません。市販の MIDI インターフェイスを使用して、MIDI 接続してください。
Macintosh OS X	Macintosh OS X では自動的に USB-MIDI デバイスとして認識されますので、特別なドライバーは必要ありません。アプリケーションソフトで本機と MIDI 通信する場合は「USB-MIDI」を指定してください。
OS9 以前の Macintosh	OS9 以前の Macintosh にはサポートしておりません。市販の MIDI インターフェイスを使用して、MIDI 接続してください。

■ iPad について

ATX3L は iPad と接続し、楽器に対応した iPad アプリケーションを使って楽しみいただけます。

ご使用の前に、下記のカワイホームページより iPad、各アプリケーションの最新の対応状況・動作環境情報を必ずご確認ください。

<http://www.kawai.co.jp/>

■ USB に関するご注意

MIDI と USB が同時に接続された場合、USB が優先されます。

ATX3L とコンピュータを USB ケーブルで接続する場合は、まず USB ケーブルを接続してから ATX3L の電源を入れてください。

ATX3L とコンピュータを USB 接続した場合、通信を開始するまでしばらく時間がかかることがあります。

ATX3L とコンピュータをハブ経由で接続し動作が不安定な場合は、コンピュータの USB ポートに直接接続してください。

下記の動作中、ATX3L の電源オン/オフ、USB ケーブルの抜き差しを行うと、コンピュータや ATX3L の動作が不安定になる場合があります。
「ドライバーのインストール中」「コンピュータの起動中」「MIDI アプリケーションが動作中」「コンピュータと通信中」「省電力モードで待機中」

お使いのコンピュータの設定によっては、USB が正常に動作しない場合があります。ご使用になるコンピュータの取扱説明書をよく読みの上、適切な設定を行ってください。

*“MIDI” は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

*Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。

*Macintosh および iPad は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。

*その他、本取扱説明書に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

*Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、カワイはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
 その他の商標および商号は、それぞれの所有者に帰属します。

*Bluetooth (Ver4.1 GATT 対応) / Bluetooth Low Energy MIDI Specification に準拠しています。

ATX3L 仕様

■ ATX3L 仕様

音色	19 音色
同時発音数※	最大 192 音 (音色により異なる)
効果	リバーブ (ルーム、ラウンジ、スモールホール、コンサートホール、ライブホール、カテドラル)
メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4 拍子
その他機能	おまかせ設定、チューニング、トランスポーズ、 MIDI 設定機能、オートパワーオフ
ペダル	ダンパー (ハーフペダル対応)、 ソフト (ソステヌートに切り換え可)
外部端子	ヘッドホン (2)、MIDI (IN / OUT)、USB TO HOST
定格電圧	AC100V、50 / 60Hz
消費電力	7 W (AC アダプタ使用)
同梱品	ヘッドホン / AC アダプタ (PS-154) / 取扱説明書 (本書) / 保証書

※ デジタル音源そのものの性能を表現する数値であり、すべての音色で同時発音数を保証するものではありません。

KAWAI [Model ATX3L] MIDI インプリメンテーションチャート

Date : May 31 2018 Version : 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル	電源 ON 時 設定可能	1 1 ~ 16	1 1 ~ 16	
モード	電源 ON 時 メッセージ 代用	モード 3 × *****	モード 1 モード 1、3* ×	* 電源 ON 時オムニオン。 MIDI チャンネル設定操 作によりオムニオフ。
ノートナンバー	音域	9 - 120** *****	0 - 127 0 - 127	** 9 - 120 トランス ポーズを含む。
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v=1-127 × 8nH v=64	○ ○	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロールチェンジ	7	×	○	ボリューム
	64	○ (右ペダル)	○	ダンパー
	66	○ (左ペダル)	○	ソステヌートに設定可能
	67	○ (左ペダル)	○	ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	(プログラムチェンジ 対応表参照) [P. 18]
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション	×	×	
	ソングセレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム	クロック	×	×	
	コマンド	×	×	
その他	ローカル ON / OFF	×	○	
	オールノートオフ	×	○ (123-127)	
	アクティブセンシング	×	○	
	リセット	×	×	
備 考				

モード 1: オムニオン、ポリ モード 2: オムニオン、モノ
 モード 3: オムニオフ、ポリ モード 4: オムニオフ、モノ

○: 有り
 ×: 無し

株式会社 河合楽器製作所

〒430-8665 浜松市中区寺島町200番地
<http://www.kawai.co.jp/>

■ お問合せ先について

ご不明な点などがございましたら、下記のお客様相談室をご利用ください。

◆お客様相談室

TEL. 053-457-1311 / E-mail. customer@kawai.co.jp
電話受付時間 9:00~12:00 / 13:00~17:00
(土曜、日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます。)

◆お客様サポート・お問合せフォーム

<http://www.kawai.jp/> より「お客様サポート」へお進み
ください。

故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店までご連絡ください。